

「共に生きる」
社会福祉法人白老宏友会
共生型事業の概要

平成25年度～平成28年度

白老町の現状

- 人口 17,751人
- 高齢化率 40.1%

(なんと平均年齢:54歳!)

- 産業 日本製紙白老工場

畜産(しらおい牛)・漁業(スケソウ他)

水産加工(タラコ)・養鶏(鶏卵)

椎茸栽培など

- 2020年に国立博物館開設予定
- 少子高齢化・人口流失・財政悪化・・・

社会福祉法人白老宏友会の概要

障害福祉サービス事業

就労継続支援B型 1箇所 = 定員40名

生活介護事業 3箇所 = 合計定員80名

地域生活援助事業 17箇所 = 約100名

短期入所 2箇所 = 4名(単独型3名)

特定相談事業所1箇所

国道から山奥へ4キロ



障害者の地域生活支援・福祉的就労

17箇所：約100名の地域生活をバックアップ。



白老町の中心街に位置



共生型事業のきっかけ

- 昭和59年に白老町内の郊外に開設された知的障害者入所更生施設を廃止し、利用者全員を地域のケアホームへ移行する計画
- 移転先地域の実情
 - 公営住宅密集地
 - 独居高齢者や母子家庭、障害者世帯等が多い
 - 地域のコミュニティ維持が困難になってきている他

共生型事業「はあもにい」の周辺



建物内部の様子



調理室



単独型短期入所3床



多目的室



事務室

私たちのできること

・事業検討

- ・法人職員5名・地域委員5名での検討
- ・地域の課題

独居老人が多い・孤食・話相手がない・
宅配給食を利用する方が多い・地域交流が困難
家から出る機会が少ない・児童が比較的多い・
貧困や孤独・母子家庭……

- * 地域ほっこり食堂事業
(孤食対策・交流・調理体験……)
- * ご近所野菜市
(家庭菜園・生きがい・健康・交流・外出の機会……)
- * 現代版寺子屋事業
(年2回の地域児童との交流)
- * 会議室の開放
(高齢者サークル活動・各種会議など)

4つの事業を提案し、事業実施を行う



3月開催風景・小さな雛人形

地域ほっこり食堂の開店

- 第一種低層住宅地域では食堂営業は制限がある。
- 出来る範囲での企画立案 月2回の実施
(継続性・安心・安全・笑顔)
- 町広報、町内会への折込チラシ・看板設置
 - * 行きたいけど一人ではいけない
 - * 行きづらい * 準備に要する時間、経費
- NPO法人「御用聞きわらび」との連携

地元企業からの食材提供・ボランティアによる楽器演奏、歌声など地域と共に

NPO法人御用聞きわらびとの連携

高齢者等日常生活支援 御用聞き わらび

NPO法人御用聞き わらび
（代表）

2012年8月設立

理事長：星 貢



地域課題

- ・高齢者世帯の増加（特に後期高齢者及び単身高齢者の急増）。
- ・日常生活に不便を感じている高齢者や身体障がい者の増加。

事業のねらい

- ・対象は地域の高齢者世帯、身体障がい者。
- ・日常生活支援をする事により、普段引きこもりがちな高齢者・身体障がい者の生活の質を守るため地域の「助け合い」を促める。

事業概要

- ・会員制の有償ボランティア互助組織とし、利用会員・協力会員・賛助会員を募る。サービスの利用・提供は、利用券（チケット）を介して行う。
- ・高齢世帯・身体障がい者などに、家事（掃除・窓ふき・風呂洗い等）外出り（草取り・草刈り・雪かき等）、外出（買い物同行・イベント同行等）、ふれあい（食事会・話し相手など）の支援を行う。

ウェブサイト

<http://blog.goo.ne.jp/warabi-tyan>

現在は利用ニーズが急増、地域生活継続の砦として大変重要な意味合いを持っている事業所。



料理を作るボランティア・実は高齢者が多い

食材を提供してくれる地元企業

今日は歌声喫茶風に皆さんで唄って元気いっぱい。

お食事が終了して、皆さんご歓談。この日は、小さな雛人形が飾られ、季節を感じる心使いが良いですね。準備をしてくださるスタッフに感謝。

地域ほっこり食堂の拡大

熊に
注意！

- ①食べるだけでなく調理
する体験を追加・究極
は食材も調達！



竹の子採り

- ②障がい者の調理体験
教室

メニュー作り
から携わり、
午前中に調
理、お昼には
美味しいご飯
の完成！



地域ほっこり料理体験

ワイワイがやがや楽しい時間



山菜て、ご馳走ね！

- 左上の写真は夏野菜のトマトを使ったピューレの作り方教室
- 右上は山菜採取体験後の写真。食べきれないほどの山菜料理でした。



会話がある食事は楽しい

28年度秋調理体験「ニシン漬けにチャレンジ」風景

高齢者だけではつまらない。
世代を超えた
交流が新鮮



女子会の始まりです。漬物の話、世間話など花が咲く



漬物初心者講座に60代の参加者が多かった理由は・・・

ご近所野菜市！

- 地域住民の交流促進として
- 外に出る機会、話をする機会として
- 高齢者の趣味を生かして
- 野菜を育てること、販売することで活躍できる
- 多少のお小遣いに(出店料は1回100円)
 全体の売上げ1回＝3万円程(意外に売れている)
- 楽しい会話の時間(世間話でお買い物)
 野菜作りの情報交換も楽しそう
- 8月～9月の2ヶ月間(毎週火曜日13時～14時まで)(毎週金曜日は別の会場で午前実施)

出店者は平均6件～10件ほど

消費者目線
は健在！



写真は1年目の様子

1回で平均3万円程の売
上げ。約5・60人程度

翌年から簡易テントを使用して設営
しやすく。

買いやすい価格、量、新鮮、安心

ご近所なので、歩いて買い物
ができるね。



現代版「寺子屋事業」

- 高齢者等がスタッフとなり、町内の小学生を対象に夏・冬の2回開設
＜今までの企画＞
- 巣箱作り体験・野鳥の勉強・凧作り体験・ミニチュア椅子作り・点字の体験・木製スマートボール作り・木製迷路・クリスマスリース作り・
- 昼食も楽しみ
流しそうめん・流しラーメン・オムライス・もちピザ・お好み焼き・ジンギスカン…



白老町内の小学校から集合！日頃会うことが無い子供達も時間と共に仲良くなり、わきあいの素敵な時間が過ごせました。

木を使った工作は人気があり、応募人数を超えることも、事業によっては不発のことも。

大人の自己満足では子供は喜ばない・自分で作る喜び



夏はやっぱり「カキ氷」だね！



クリスマスリースを作りました

地域活動の場として活用

- 高齢者のサークル活動
- 町内会の会合
- 生活保護児童の学習支援
- 障害者の趣味活動の場
- 各種サークル活動の場



ひよつとこ踊りの練習風景

低料金で使用できる地域のコミュニティースペース

今後の課題

- スタッフの高齢化
- これから10年～高齢化率がさらに上昇
- 地域のニーズはさらに複雑かつ増大に

共に生きる

- 地域に住んでいても、孤独を感じる社会ではいけない。
- 障害を抱えていても、高齢であっても、いろいろな人がいるから社会であり、交わることで地域を作ることが出来る。
- 出来る範囲で、出来ることを長く続けよう。

高齢者でも障害者でも野菜を作りで主人公になれる。

売ることによって主人公になれる。 買うことによって主人公になれる。

立場を変えたら、みな主人公になれる。